

目次

巻頭言

ソフトウェアの時代は終わった.....村岡 洋 一

特集:「ハードウェア記述言語」

- 特集「ハードウェア記述言語—新しいシステム設計環境の実現に向けて—」の  
編集にあたって.....安浦 寛人・山田 輝彦 1235
1. 論理合成時代のハードウェア記述言語.....安浦 寛人 1236
  2. 主要なハードウェア記述言語の特徴と標準化状況
    - 2.1 UDL/I .....星野 民夫・唐津 修 1244
    - 2.2 VHDL.....今井 正治 1250
    - 2.3 SFL.....小栗 清・中村 行宏・野村 亮・名古屋 彰 1256
    - 2.4 Verilog HDL.....野地 保 1263
  3. ハードウェア記述言語の比較.....神原 弘之・安浦 寛人・  
P. Kukkal・H. Kobayashi・野地 保・小栗 清 1269

特集:「ユーザインタフェース管理システム (UIMS)」

- 特集「ユーザインタフェース管理システム (UIMS)」の編集にあたって  
.....坂下 善彦・川越 恭二 1284
1. ユーザインタフェース管理システムの基礎
    - 1.1 ユーザインタフェース管理システムの基本概念および対話の方式.....守 屋 慎 次 1285
    - 1.2 ユーザインタフェース管理システムと対話制御.....宮 崎 一 哉 1295
    - 1.3 ユーザインタフェース管理システムと応用プログラムとの通信.....今 宮 淳 美 1304
  2. ユーザインタフェース管理システムの適用事例
    - 2.1 ユーザインタフェース管理システムのCASE環境への適用.....秋 口 忠 三 1314
    - 2.2 ユーザインタフェース管理システムの制御システムへの適用  
.....谷 正之・平沢宏太郎 1324
  3. ユーザインタフェース管理システムの研究動向と将来.....橋 本 治 1331

会員の声

- 連載「情報科学・工学、私はこう考える」  
OS 研究、私はこう考える.....猪 原 茂 和 1340  
OS、私はこう考える.....早 川 栄 一 1341

解説

- エキスパートシステムの諸事例—VI 生産計画立案支援システム  
.....大谷 明・後藤 周一・桑田 喜隆・本條 信隆 1342  
全ての評価項目を合わせて満たすようにする事が容易ではないスケジューリング問題を解くエキスパートシステムの1つの事例として、生産計画立案支援のシステムを述べる。

講座

- 計算機の記憶システム—II キャッシュと仮想記憶の技術.....朴 泰 祐 1348  
前回、記憶素子を中心に記憶システムを概観しました。今回は、仮想記憶、キャッシュなど記憶システムを構成するうえでの基本的な技術を紹介します。
- 連載講座「キー検索技法」の編集にあたって.....青江 順一・榊 博史 1358  
キー検索技法—I 静的ハッシュ法とその応用.....青江 順一 1359  
連載講座で紹介される検索技法の相互関係について述べ、ハッシュ表の大きさが変化しない静的ハッシュ法の基本原理と衝突による問題点を説明する。衝突の解決法として、完全ハッシュ法、開番地法、連鎖法とその特徴を紹介する。

- 書評.....1367  
文献紹介.....1370  
ニュース.....1375

## 本会記事

論文誌梗概	1376
情報技術標準化のページ	1382
第368回理事会	1383
各種委員会	1385

新規入会者	1385
採録原稿	1385
会告	(1~36)

会 長	萩原 宏	監 事	山田郁夫 竹下 亨
副 会 長	小林 亮 相磯秀夫		
理 事			
総 務	勅使河原可海 磯崎 澄	関 西 支部長	手塚慶一
財 務	林 弘	東 北 支部長	奈良 久
学会誌	松下 温 箱崎勝也	九 州 支部長	大槻説乎
論文誌	村岡洋一 土居範久	東 海 支部長	山田 博
欧文誌	佐藤 繁 斉藤忠夫	北 海 道 支部長	伊達 惇
事 業	鶴保証城 松永伍生	中 国 支部長	磯道義典
出 版	春名公一 坂 和磨	四 国 支部長	島田良作
研究会・規格	大野侑郎 稲垣康善	北 陸 支部長	木村正行
国 際	斎藤信男 八賀 明		

### 学会誌編集委員会 (主査・幹事)

(基礎・理論分野)	(ハードウェア分野)
西野哲朗 長尾 確	笠原博徳 中田登志之
(ソフトウェア分野)	(アプリケーション分野)
川越恭二 坂下善彦	宮崎収兄 金子俊一

### 文献ニュース小委員会

委員 長	岩野和生
副委員 長	本多弘樹

## 複写をされる方に

本誌(書)に掲載された著作物は、政令が指定した図書館で行うコピーサービスや、教育機関で教授者が講義に利用する複写をする場合等、著作権法で認められた例外を除き、著作権者に無断で複写すると違法になります。そこで、本著作物を合法的に複写するには、著作権者から複写に関する権利の委託を受けている次の団体と、複写をする人またはその人が所属する企業・団体等との間で、包括的な許諾契約を結ぶようにしてください。

学協会著作権協議会内日本複写権センター支部  
107 東京都港区赤坂 9-6-42-704  
Phone 03 (3475) 4621・5618  
FAX 03 (3403) 1738

## Notice about photocopying

In the U. S. A., authorization to photocopy the copyrighted publication or parts thereof for internal or personal use, or the internal or personal use of specific clients, is granted by [copyright owner's name], provided that designated fees are paid directly to Copyright Clearance Center. For those organizations that have been granted a photocopy license by CCC, a separate system of payment has been arranged.

Copyright Clearance Center, Inc.  
27 Congress St.  
Salem, MA 01944  
Phone 508 (744) 3350  
FAX 508 (741) 2318

## 事務局

160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階  
TEL 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534  
郵便振替口座 東京 5-83484

## 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562  
三菱銀行虎ノ門公務部 0000608  
名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1

エステック情報ビル 27 階 社団法人 情報処理学会